

令和3年度 環境で地方を元気にする 地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業 キックオフミーティング 発表資料

活動団体の本事業への関わり

今年度より“環境整備“に取り組む	✓
昨年度から引き続き“環境整備“に取り組む	
昨年度までの“環境整備“を経て、今年度より事業化に取り組む	
昨年度までの“環境整備“と“支援チーム派遣(事業化支援)”を受けて引き続き事業化に取り組む	

活動団体名：**天理市環境連絡協議会**

活動地域：**天理市**

活動におけるテーマ：**環境・エネルギー・まちづくり**

防災を軸にしたエコシティ天理SDGs推進

天理市環境連絡協議会の概要

- ・設立:天理市環境基本計画のもと、地域連携と協働の場として2015年2月に設立
- ・構成:市民、市民団体、事業者、学識経験者、天理市
- ・活動:天理の環境をより良い状態で次世代に引き継ぐこと目的に5つ部会で活動
 - 〈緑の保全部会〉〈ストップ温暖化部会〉〈まちづくり・観光部会〉
 - 〈ごみ減量部会〉〈環境教育部会〉



落ち葉かき(肥料に活用)



布留川清掃(ホタルが棲息)



環境フォーラム



天理ダム視察(小水力発電)



子ども工作教室(ソーラーランタン) 2

ありたい地域の未来を実現するために何をするか

ありたい地域の未来

地域の自然、歴史、文化を活かしながら、より良い市民生活ができるよう、エコロジー・エコノミーの両立と災害に強いまちを目指す

課題（地域の課題、ありたい未来を達成するための障害など）

人口が年々減少、農家の高齢化、耕作放棄地が増加している。さらに商店、事業所が減少、それに伴う就業人口が減少している。また、大学、高校を卒業した若年層の転出が多い。

資源（活用できる地域資源、必要な資源、地域外の資源など）

大学、宗教文化が立地した教育環境に恵まれた地域で、歴史的史跡が豊富である。さらに、ホテルが棲息する川や7 kmにわたるイチヨウ並木の街路樹があり、里山や農地が豊富にある。また、天理市は環境意識が高く、今年3月ゼロカーボンシティを宣言した。

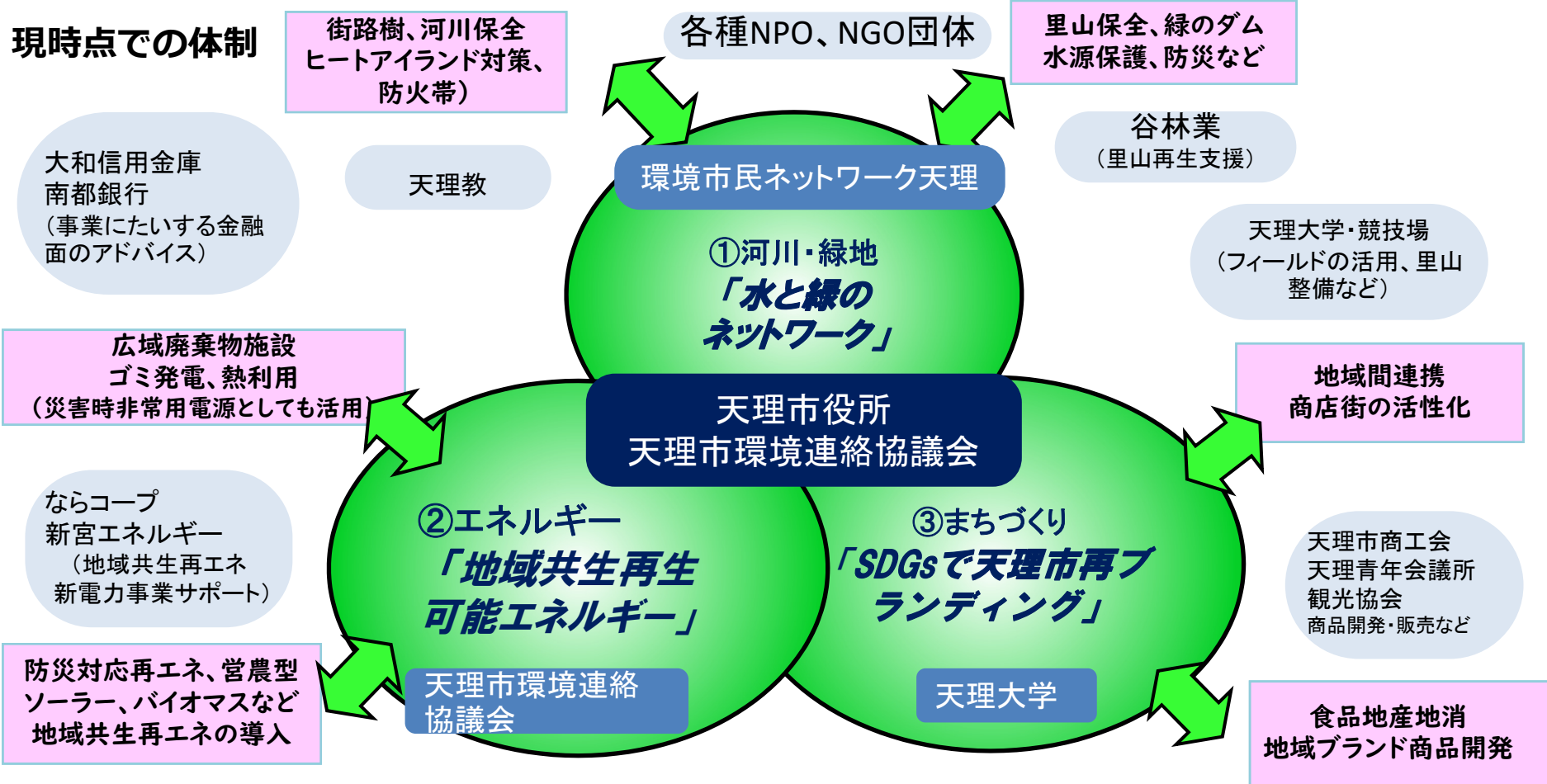
取組（ありたい未来達成に必要な取組、現在想定している事業のタネ）

- ①水と緑のネットワーク: 街路樹健康度調査と保全提言、ホテルをシンボルとした河川調査、保全活動と里山保全と利用活動を行う。また、環境教育の推進、エコツーリズムビジネスの創出を模索する。
- ②地域共生再生可能エネルギー: レジリエンス再エネ、営農型ソーラー、里山再エネ等、地域と共生でき再エネの導入可能性調査とモデル事業の選定を行う。併せて、地域再エネ事業構想を立案する。
- ③まちづくりプロジェクト: 商店街の空き店舗に若者のアイデアを生かし活用する。また、天理の歴史・文化自然の学び、農業体験を行う宿泊型教育や地元名物のイチヨウ葉や、お茶の実の商品化をめざす。

成果（取組によって出したい成果）

地域と共生する再エネの導入拡大によるゼロカーボンシティ実現、新電力ビジネスによる地域経済向上を目指す。また、地域の自然を生かした商品開発とイチヨウ、ホテル等の環境をアピールしたエコツーリズムビジネス創出、さらに宿泊型体験教育プランを実現し、全国の学生やインバウンド観光客を誘致する。

目指す“地域プラットフォーム”のイメージ



環境整備を通して構築する“地域プラットフォーム”のイメージ

- ・ 環境市民ネットワーク天理を核とし、水と緑、里山の保全から環境ビジネス創出に向けた行政、市民団体、事業者、金融機関等幅広いステークホルダー協働体制を構築。
- ・ 公共避難所、民間宿泊所にレジリエンス再エネをPPA手法等で導入できるようにステークホルダー連携の構築や営農型ソーラーの導入に向け、農家とビジネスパートナー、再エネ事業者の協働体制の構築。
- ・ 商店街再生、地域ブランド化、休耕田活用を天理大学学生のアイディアを取入れステークホルダーとの協働体制を構築。また、宿泊型体験教育ビジネス創出に向け、大手ツアー事業者とも連携。

年間スケジュール（参考資料）

